

工友会会報



発行所

岡山県立岡山工業高等学校
工友会岡山市伊福町4丁目3番92号
編集責任者：佐藤 弘典
福嶋 肇

印刷所：株式会社サラト

ご意見、情報はこちらまで
TEL 086-252-5231
FAX 086-252-7130

ご挨拶

工友会会長
山本 鴻
(昭和29年土木科卒)

平成十八年度工友会会報発行にあたり一言ご挨拶申し上げます。

工友会の皆様には、益々ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げますとともに、平素より工友会活動に対し格別のご支援ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

母校の卒業生は開校以来二万七千余名となりました。ご逝去された方もおられますので現在全国各地で活躍されている工友は一万八千名位と推定されます。このうち約二千余名の方々が県外に在住されているものと想定されます。このように拡大する工友会活動を支えていただき、同窓生の友情を深めるため各職場、地域に現在五十に及ぶ支部が設立されており活動いただいているところであります。

更に、最近では工友有志により支部新設の気運が高まりつつあり、将来の工友会活性化に寄与するものであり幸甚に存する次第であります。

「聖域なき構造改革」の名の下に、五年五ヶ月にわたり国民の高い支持を維持してきた小泉政権が幕を閉じました。改革の象徴となった郵政民営化や道路公団の民営化、国、地方財政の三位一体改革をはじめとする多くの改革が進められました。しかし、その大半は道半ばであり後戻りは許されず、改革の裏で市場原理主義が浸透し所得格差が広がったとも言われております。

かわって初めての戦後世代、安倍政権が誕生いたしました。経済成長を維持し、行政改革に力を入れ成長しながら改革を進め、活力と再チャレンジと優しさにあふれた「美しい国」日本を目指す所信表明されております。期待したいと思うのであります。

景気は拡大期間が「いざなぎ景気」を超えて戦後最長になったと報じられておりますが、問題は一般消費者に実感として伝わらない事であります。政府の月例報告では、企業部門の好調さが家計部門へ波及していくと言われておりますが、不透明さも多し事から工友諸兄にも今しばらく辛抱が必要かと存じます。

平成十八年度の総会は、去る七月九日（日）に中国電力株式会社岡山支店支部にお世話いただき、岡山プラザホテルで開催いたしました。当日は早朝に激しい降雨があり出席が心配されましたが、例年同様多数の会員の参加を得て盛大に開催する事ができました。予算、決算の承認と本年は役員改選の年でありましたが全員留任のご決定をいただきました。引き

続きご支援いただきますようお願い申し上げます。

平成十七年度の秋の叙勲で、中瀬節夫（化三十二年卒）さんが受賞の栄に浴されました。工友にとりましても名譽な事と祝福申し上げますとともに、今後益々のご活躍を祈念するものでございます。

総会後出席者全員で記念撮影を行い、懇親会では楽しい一時を過ごさせていただきました。今回は電気科卒業生の方々の参加も多く、新しい工友との出会いも楽しませていただきました。ご準備いただきました中国電力株式会社岡山支店支部には初めての総会を担当いただきました。大変なご苦勞をお掛けした事と存じます。支部長の金光昌一（電五十年卒）さんをはじめ支部工友諸兄に厚く御礼申し上げます。尚、早速閉会時には記念写真を全員に配布いただき有り難うございました。

平成十九年度の工友会総会はアイサワ工業株式会社支部（支部長 逢澤裕二・土五十年卒）のお世話で七月に開催する予定であります。工友多数のご参加をお待ちしております。

最後になりましたが、工友皆様方のご健勝とご多幸、母校の発展をお祈り申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



ご挨拶

校長
宇佐見一郎

寒さの中にも春の気配が感じられる頃となりました。工友会会員の皆様方には、益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

平素から母校教育の充実、発展のために、物心両面にわたる一方ならぬご理解とご支援を賜り、誠に有難うございます。日頃の教育活動が円滑に推進できておりますのも、皆様方の温かいご支援があればこそと深く感謝いたしております。心から厚くお礼申し上げます。次第です。

さて、本誌面を拝借して学校の近況をご報告いたします。

岡山県では、平成元年をピークに中学校卒業者が漸減しています。本学もそうした少子化の影響を受け、今年度から機械科が一学級減となり、一年七学科七学級規模となりました。

生徒数は減少いたしました。生徒たちは、勉学に部活動にと、よく励んでくれており大変嬉しく存じております。

部活動は、体育系・文科系を問わず年々盛んになり、多くの部、同好会が

熱心に活動しております。自転車競技部をはじめ陸上競技部、ボクシング部、ラグビー部などは全国大会出場の常連です。弓道部、バスケットボール部、空手道部などは中国地区大会の常連となっております。野球部も甲子園への道程は遥かではありませんが活気に満ちています。

自転車競技部は、中国地区大会学校対抗の部で目下七連覇中であり、ボクシング部は、二〇〇六年のじぎく兵庫国体の少年の部バンタム級で見事優勝の栄冠に輝いております。ラグビー部は全国高校ラグビー大会県予選で五連覇を目指しましたが、決勝で惜敗し涙を吞みました。

一方、学習面では、昨年度から三年間の予定で、文部科学省の「I-T（情報技術）人材育成プロジェクト」の研究指定校、いわゆるスーパーI-TハイスクールとしてI-Tに関わる人材育成の実践研究に取り組んでおります。

また、各専門科では、それぞれの特色を活かして幅広い活躍をしております。デザイン科では、年中行事のように各種ポスター公募展等で優秀な成績を収めてきております。各部門の高校生ものづくりコンテスト県大会及び中国地区大会、メカトロニクス技術などを駆使して優秀な成績を収めるなど、岡工の技術力の高さを示す活躍をしてきています。また、奉還町商店街や京山公民館など地域と連携した取

組も広がりを見せております。

このように、生徒は勉学だけではなく、部活動などの課外活動との両立を目指して頑張ってくれており、誠に頼もしい限りです。学校全体に活気が漲っております。

お近くにお越しの際は、是非一度お立ち寄りくださいまして、学校の様子をご覧いただければ幸いです。学校の様子し、後輩たちに励ましのお声でも掛けてやっていただければ誠に有難く存じます。

ます。

教職員一同は、創立一〇五年目を迎えた本校教育の更なる充実、発展を図り、二十一世紀の我が国の基盤を支える有為な人材育成という使命を果たすべく邁進しております。今後とも、皆様方の温かいご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

おわりに、工友会の益々のご発展及び会員各位の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。ご挨拶いたします。

工友会総会をおえて

中国電力岡山支部

代表 金光 昌一

(昭和五十年電気科卒)

総会にご出席くださいました皆様、総会を実施するにあたりご尽力いただきました諸先輩方、当日の実行委員、学校関係者の皆様おつかれさまでございました。おかげをもちまして平成十八年度総会および懇親会を盛大に開催することが出来ました。ありがとうございます。

当日は、朝から雨となり足もとの悪い中総勢二五〇名ご出席いただきとっておこないました。

総会においては平成十七年度事業、決算報告の承認、および十八年度の事業、予算審議を行い満場一致で可決されました。

懇親会では、工友会長の乾杯の発声で始まりつづいて幹事支部の仕事の紹介を行いました。

久しぶりに会うかたとの再会で、在籍当時の思い出や、それぞれの家族など近況報告、仕事のことなど話し合い、和気あいあいのなかあつという間のひとときでありました。今までお会いしたことがない方が、話をしてみると実は仕事で近い関係であったり、卒業生ということのみよりに親近感を覚え参加者が一つになったような雰囲気になりました。そのようななか時間が進み皆さん笑顔で、来年の再会をお約束して無事総会及び懇親会を終了しました。みなさんほんとうにごくろうさまでした。

今年都合で参加できなかったみなさん、一度も参加されたことの無いみなさん、たのしいひとときになり



ますことうけあいです。次回はずひ
参加いただきますようお願いいたし
ます。
総会・懇親会の様子を報告させて

いただき、次回の監事支部でありま
すアイサワ工業さまに引継ぎをさせ
ていただきたいと存じます。
ありがとうございました。

平成十九年度工友会総会 担当支部挨拶

アイサワ工業株式会社支部 支部長

逢澤 裕二 (昭和五十年土木科卒)

工友会の皆様には、ますますご健勝
にてご活躍のことお慶び申しあげます。

この度、平成十九年度工友会総会の
お世話をアイサワ工業株式会社支部
(会員三十五名)が担当させていただきました
ことになりました。

微力ではありますが、工友会事務局
をはじめ会員の皆様のお力をお借りし
ながら、支部一丸となり、精一杯努め
させていただきたいと思えます。

さて、私は工友会の会員の一人とし
て、母校岡山県立岡山工業高等学校生
徒の皆さんの活躍を新聞の紙面や工友
会会報あるいはTV等を通じ一喜一憂
しております。

また、工友会会員の皆様のご活躍も
多地域他業種にもわたられており、縁
ありお互い会員であることが判つたと
きの喜びは、友人を得た喜びのよう
も思われます。

私自身、在校時はサッカー部に所属
しており、いまだに先輩後輩と一緒に

OBシニアチームの一員として、サッ
カーを通じて交流を深めている状況で
す。

会員の皆様におかれましても、この
工友会総会及び同懇親会を通じて、世
代を越えて交流を深めていただき、今
後の工友会の更なる発展につなげてい
ただきたいと考えております。

尚、今年度の工友会総会は、平成十
九年七月八日(日)に岡山プラザホテ
ル(岡山市浜)にて開催を予定してお
りますので、今まで参加されたことの
無い会員様を含め、会員の皆様におか
れましては、お知りあいの会員様とお
誘い合わせのうえ、たくさんの方の
皆様にご参加していただき、楽しいひ
と時を過ごしていただきたいと思いま
す。

アイサワ工業株式会社支部一同、一
人でも多くの会員の皆様のご参加を心
よりお待ちしております。

支部だより

● 関東支部 ●

支部長

赤木 勤

（昭和30年工業化学科卒）

工友会員の皆様には益々御健勝で各方面にて御活躍のこととお慶び申し上げます。

平成十八年もあとわずかとなりました。今年の大きな国民的慶事として多数の日本人が待ち望んでいた、秋篠宮家の悠仁親王の誕生でした。私達の身辺は一見平和であります。家族による児童虐待問題、いじめによる子供の自殺等、現代の子供達をめぐる惨状には強い怒りを感じます。学校、地域、家庭のネットワークづくりが急務であります。

福島県、和歌山県、宮崎県の首長による談合事件も地方自治は民主主義の学校といわれましたが国民の行政不信は増すばかりです。私達岡山工高は建学の精神「誠実勤勉」をモットーに歩んできましたが改めて校訓のもつ偉大さを痛感しています。

平成十八年度関東支部総会が四月十六日お茶の水銀座アースターで開催さ

れ、工友会本部より山本工友会長、佐藤事務局長、母校岡山工高より宇佐見学校長をお迎えし開催されました。総会次第によって、池口事務局長の司会により今吉副支部長の開会の辞、板野支部長挨拶、山本工友会長挨拶、会務報告として、予算及び決算、会計監査報告、新支部役員が万場一致で承認され、新赤木支部長の挨拶で議事は終了し例年通り記念撮影。中原一郎氏の乾杯の音頭で懇親会が始まりました。席上、池口事務局長よりNHKの人気番組プロジェクトXに出演されました佐古井耕三氏（機33）がドーバー海峡のトンネル工事を完成しました。現場視察の報告がされました。校歌斉唱、手締を土井幹事、今吉副支部長による閉会の辞によって一年後の再会を期して別れました。

関東支部の、地域支部として横浜クラブがあります。結成して10年、山歩きの会、ゴルフ、囲碁、落語を楽しむ会、音楽鑑賞会と五部門のサークルが活動しています。生涯学習の場、親睦交流、健康づくりを通じ益々発展が期待されます。

誠に悲しむべき出来事ですが岡山大文学部名譽教授、理学博士柏野節夫氏（工業化学30年卒業）が十一月肝細胞がんでなくなりました。結晶構造学の権威者で学会にとっても又同窓会にとっても大きな損失であります。心より御冥福をお祈りいたします。

（二〇〇六年十二月六日記）





大阪支部 (岡友会)

事務局長 高橋 紀二 (昭和33年化学科卒)

工友会会員の皆様には、ご健勝で活躍のこととお慶び申し上げます。

平成十八年度第二十六回岡友会(工友会大阪支部)総会が十月二十八日(土)十二時より開催されましたのでご報告致します。

総会開始前に幹事会を開催し、一年間の業務報告、反省、次年度の取り組み事項、会計報告、会計監査、役員改選等の原案が話し合わせ、総会に諮られます。

総会には、ご多忙の中ご来賓として工友会山本会長、母校野口教頭先生、工友会事務局の万波先生にご出席を頂き、途絶えていましたが、在阪の岡山県大阪事務所難波次長様にもご出席を頂きました。

総会は為房岡友会会長(化学科昭和二十五年卒)より、工友会本部、母校のご指導、在阪会員のご協力で第二十六回総会が迎えられました。会員諸兄弟の多大なご協力で心より感謝致します。華やかな総会までには至りません

が、会員諸兄の交流の場として今後も岡友会活動を続けて行きたいと思えます。よろしくご協力を願います。のご挨拶がありました。

山本会長からは、去る七月に工友会総会が「中国電力」支部の担当で盛大に開催された事、最近の岡山市・岡山県の近況報告がなされました。

野口教頭先生より、校長は公務で出席出来ませんが、記念会館の利用等学生諸君も大変感謝しています。生徒達は勉強・部活と張り切って元気に過ごしておりますが、現実の問題として少子化の傾向は顕著であり、クラス編成等に影響が出てきております。学校運営の一端のお話を含めてのご挨拶を頂きました。

万波先生(事務局)より、工友会会報の充実を図る外、記念会館の有効利用として、工友のご訪問があれば、いつでも入場できるように段取り致します。

なお、工友名簿発行時には、本部からキツチリとした案内をするので、他者の「勧誘の話には乗らないで頂きたい」との紹介と注意を頂きました。その他、「岡工新聞」「平成十七年度の岡工学生諸君の活躍を掲載した新聞報道集」を各員が頂戴致しました。

岡山県大阪事務所難波次長より、岡山県事務所の在阪活動の一端、また岡山県出身者の同好会等が開催されている等のご紹介を頂きました。「議事」に入り、事務局より会員動

静、親睦ゴルフ大会開催、総会開催までの一連の事務報告を含め1年間の動きが報告され、続いて会計報告、会計監査報告がなされ、報告内容が承認されました。

無事に総会を終え、会場を移し、三宅大先輩(土木科昭和九年卒)の乾杯の音頭で懇親会に入りました。会では還暦を迎えられた会員に「杯」を贈ることになったっており、今年も数名の方に為房岡友会会長(化学科昭和二十五年卒)より贈呈されました。

毎年の事ながら、卒業年次、科別の違いはありますが同窓のよしみで、ご来賓の山本会長、先生方、県事務所の幹部、女性会員さんを囲みお昼の一時を楽しく過ごしました。

恒例の校歌斉唱は「煤煙くらくく」と「組と」東天燃える」と組とにわかれて意気軒昂に合唱、お互い健康に十分留意して来年の再会を約し散会となりました。

第二十六回岡友会(工友会大阪支部)総会が無事終了したことを支部報告と致します。





● 広島支部 ●

支部長

伊丹 剛

(昭和26年土木科卒)

工友会会員の皆様にはご健勝にて活躍の事とお慶び申し上げます。

先ずは、工友会本部山本会長の秋の叙勲受章の明るいニュースに絶大なる祝福を申し上げます。同じ学舎の卒業生の集まりである工友会員にとつても名譽なことでもあります。

広島支部の近況について以下にのべます。

● 広島支部総会 (平成十八年六月三日・土)

本部から山本工友会長・佐藤事務局長、母校から宇佐見校長のご来賓を迎え支部会員九名で開会し、ご来賓の三名から工友会の活動状況、母校の近況とその資料の説明、連絡事項等のお話をうかがい心強く感じると共に広島支部としても更なる発展にむけ活動しなければと思いました。

議事に入り黒崎議長(昭十七年土木科卒)のもと平成十七年度の報告及び十八年度の計画が審議・承認され、続いて役員改選では足立支部長の勇退に伴い新支部長に私、伊丹剛が満場一致で選出され閉会となり引き続き懇親会に移りました。

懇親会は最年長の河原

顧問(昭十三年土木科卒)のご発声による乾杯から始まり、すぐ余興の部に入り、先ずは河原先輩のお年を感じさせない詩吟、続いて有志によるカラオケやスピーチなど交えて楽しいひと時を過ごし再会を約して解散いたしました。

● その他の広島支部行事

支部行事として新年互例会を二月、暑氣払いを八月、秋期旅行を十一月に実施してきております。そのほかゴルフ仲間による親睦会「岡広会」を毎月第二木曜日に実施し、すでに六十五回を数え毎年十月には取切戦を行い今年も清水千備氏(昭三十三年機械科卒)が優勝しました。最後に、工友会員のご健勝と母校のご繁栄をお祈り申し上げます。

■ 広島支部事務局からのお知らせ

広島支部事務局長

岸本 義徳 (昭37年土木科卒)

工友会広島支部の会員徽章を作成・配付し、会員相互の信頼と親睦の向上など支部活性化に役だてたいと考え徽章を作成いたしました。作成にあたっては新支部長伊丹氏のご発案とご厚志によるもので、特にデザインについては母校の校章を基に広島県の木「紅葉」と組合せ中央に「工友」を印しています。「工友」の字は紅葉の種を配しそれを繋ぎ合わせ堅い絆と友情を表現しています。



広島支部の会員徽章

■ 工友会広島支部秋期旅行

『鹿児島』

三近 秀樹 (昭35年建築科卒)

十一月十二日と十三日に七名にて一泊で鹿児島へ旅行して来ました。広島西飛行場から一時間で鹿児島空港に着きました。迎えに来ていたジャンボタクシーの運転手さんが『へえがふる』と外国語のような発音で挨拶されました。よく意味を聞くと『天気が良いので桜島の灰が降るよ』と言う事。

先ず最初の観光は、『仙巖園』薩摩藩二代藩主島津光久の別邸として造営したもので桜島と錦江湾を借景した庭は見事である。続いて隣の『尚古集成館』ですが島津斉彬が西洋に習って造った洋式工場群の総称で、大砲、陶磁器、ガラス、刀剣、農具、地雷、アルコー

ルなど多種の工場であったようだ。現在は博物館として使われている。次は、『城山展望台』市街中央で小高い山、明治十年の西南戦争で西郷隆盛の砦となつて激戦地だった。又彼はこの地で自決した。ここは、鹿児島市街が一望できます。その夜は早々と『指宿』のホテルに入り、『砂蒸し』で身体を解し、夕食には『キビナゴ』、さつま揚げ、地鶏、黒豚』と『芋焼酎』で盛り上がり、舌と胃の腑を堪能させました。

翌日は薩摩半島南端『薩摩富士』と呼ばれている開聞岳、『周囲15km、水深233mの池田湖』次は、当日のメイン『知覧特攻平和会館』太平洋戦争末期に、本土最南端に旧陸軍特攻基地が置かれ、家族の為、友の為、国の為に、『若き特攻隊員一〇三六人』が突撃しています。特攻隊員の遺書コーナーは緊張と涙無くしては読めません。来館しているたくさんさんの現在の若者も心が洗われて清々しい顔に会いました。この純粋な気持があれば、現在の『いじめ問題』も少なくなるように思われます。『いじめ』は犯罪です。いじめる者はいじめられる者の人格を摘み取ります。人はいじめられる者の側から物事を理解し、友を憂うる心をもって欲しいものです。続いては『知覧武家屋敷群』、それからフェリーで桜島へ、南岳は今も噴煙を上げます。

最後に天孫降臨の主人公『瓊瓊杵尊』をいただく『霧島神宮』に参拝して帰途につきました。



● 女性支部 ●
(あじさいの会)
 支部長
鳥越 隼
 (昭和33年工業化学科卒)

工友会会員の皆様には、ご健勝にて活躍のこととお慶び申し上げます。女性支部(あじさいの会)は第十八回総会を、平成十八年六月十一日に岡



山駅前みよしのに於て、工友会より武市顧問、母校より福嶋先生・仁科知子先生のご臨席を賜り開催いたしました。本年は関東支部より芦田和子さんのご派遣を頂き、また、東古松支部より奥山支部長はじめ三名の方々が初参加下さり、総勢二十一名となりました。活けられた沢山の紫陽花に見守られ、平成十七年度事業報告および会計報告等の議事もスムーズに運び、和やかに総会を終えることが出来ました。続いて懇親会では、初対面の方々も多くありましたが、お互いに打ち解け、楽しく賑やかに語り合いました。

このように心暖まる支部間の交流は大変嬉しいことで、今後とも大切に積極的に進めて行きたいと思えます。因みに、東古松支部とは十余年前より良き交流が続いており、五月二十一日開催の東古松支部親睦懇親会には四名が参加させて頂きました。

七月九日開催の工友会総会には、当支部より七名が出席し、先輩・後輩の皆様方と楽しくお交わりいたしました。終了後はいつものように場所を移して、近況など心ゆくまで歓談いたしました。

十一月十一日の岡工祭では、女性支部および工友会の皆様の絵画・彫刻等の作品展示を行い、学生、ご来場の皆様にご鑑賞頂きました。ご多忙の中、ご出品のご協力を頂き本当にありがとうございました。

次に、ご派遣下さいました芦田さん、ご出陣下さいました関東支部様に、ご多用の中をご出席下さいました東古松支部の皆様にごより御礼申し上げます。初めてのことでしたが、

課題も多く、仲々発展の望めない女性支部ですが、ご指導・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

祝 崇 誉

瑞宝双光章

山本 鴻

(昭和二十九年
土木科卒)

元県土木部都市局長

英国 ドーバー海峡を 見たまま

日立空調 社友
池口 健児
(昭和34年機械科卒)

工友会会報第43号にドーバー海峡の下に二本の鉄道トンネルを掘った岡工の先輩が居られる事を知り日本の青函トンネルも歴史的大工事であったがこれを超えるものと日頃興味を持っていました。NHKの人気番組「プロジェクトX」に出演された佐古井耕三氏（機33）である事はご承知の通りです。私は（機34）ですので南方校舎での出会いがあったものと思います。

さて英国側のユーロスター（EUROSTAR）の出发点とドーバー港手前でトンネルに入る場所はどんな所だろうと思ひ、昨年七月二日英国出張の合間を利用して現地に行き見たままを書いてみました。

一九九四年に開通した英国とヨーロッパ大陸間を結ぶユーロトンネル、国際特急（ユーロスター）はロンドン市内中央のウォーターロー（WATERLOO）

駅を起点としています。

列車の姿はJR常磐線の特急「ひたち」（川崎重工製）によく似ており、ロンドン、パリ間を約三時間で走ります。ロンドン市内から車で約二時間南西方向に高速道（料金無料）を走ると両側に小麦畑を含む緑の草原を見ながら（ユーロスター）ターミナルに到着します。

対岸のフランスに渡るトラック、自家用車の出国の手続きの為のベースとなっている所です。

そこから約四十分走るとドーバー港を眼下に見る所に到達します。当日は十四時頃で大型フェリーが対岸に向かつて出港の時で海に來た実感を味わいました。佐古井氏の「もぐら」はこの地下海底を今來たターミナル地点まで約十キロを掘り進んで陸上に顔を出し海底貫通の作業を終えたのですが現場にたたずんで見て工事の壮大さを感じた次第です。

ドーバー港を見下ろす小高い丘の上に中世（百年戦争）の名残の城の一部が現在も残っており、その塔頂上には英国旗（ユニオンジャック）が風にはためいていました。当時の城はフランスから來る敵に対し重要な監視の拠点だったに違いありません。

全長50km、海底部38kmの海底トンネルをドーバー港に立って見たとき佐古井氏はどんな思いで掘り進んだのだろうと思いつつロンドンに向かって帰った次第です。

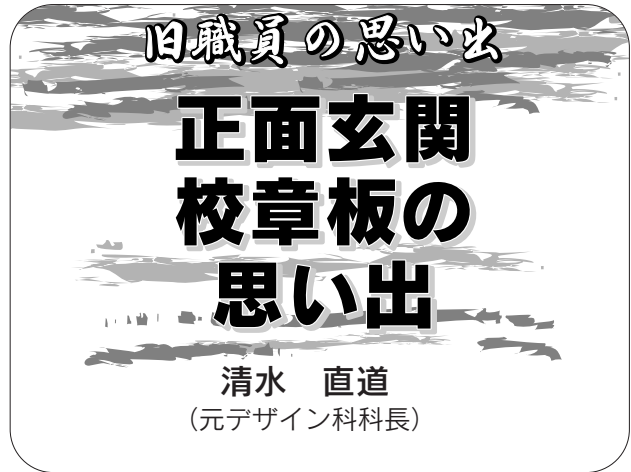


城



ドーバー港

対岸フランス領



教職生活の半分以上にあたる二十一年間も岡工に勤務させていただきましたので、日々の教職生活は勿論のこと工友会に関係したことも数多くの楽しい思い出があります。

工業デザイン科の教員として赴任したのが、昭和四十六年四月であり、丁度創立七十周年の年にあたっていたために岡工在任中に創立七十・八十・九十周年と三度の記念行事に出会える幸運に恵まれました。そして、その機会に私なりに幾らかのお手伝いもさせていただきました。ことができなかったので、それだけに良い思い出があります。また、いずれの記念事業の場合も工友会から絶大なご支援をいただいたからこそ成功したことが思い出され、会員の皆様

の母校に寄せられる熱いお気持ちとその強力な底力に驚かされたものでした。中でも八十周年の記念事業は、記念誌の発行は勿論のこと県下有数の素晴らしい門となった校門改築、プールサイド下の部室整備、中庭造園、玄関ロビーへの展示ケース設置、ボクシング練習場の整備、ピッチングマシンの設置など多岐にわたった大規模な事業でありましたが、工友会の全面的なバックアップにより、何れも成功できたと記憶しています。

そして私にとって特に思い出深いのは、その事業の一環（実設置は少し後年）として、正面玄関の壁に金属製の校章板を設置する案が持ち上がり、大きさの決定、設置位置の選定、原寸大の下図の作成、業者の選定と発注、材質の選定などのお手伝いをさせていただいたことです。初めての経験であり、先ず大きさを幾らにしたら良いか散々迷い最終的に直径一六〇センチに決めたいものの地上で原寸下図を描いた時は大き過ぎる様に感じられ、完成したものが取り付けられたのを見るまで随分心配しました。しかし、その後校門に入る度に燦然と輝く校章板を見て、歴史と伝統のある岡工および工友会の隆盛に相応しいものになったと当時のことと重ね合わせて一人感慨に耽ることがあります。

旧職員の一人として、岡工と工友会の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。



卒業生の思い出

岡工生として の三年間

佐藤 祐作
(平成8年電気科卒)

岡工での三年間は本当に楽しく、あつと言う間に過ぎ去っていききました。

今でも、もし帰れるものなら高校時代に帰りたい気持ちです。入学した当初にはクラスメイトとうまくやっていたのにか心配でしたが、今でも信頼の置ける仲間となりました。特に岡工祭、体育祭などの行事は他校より自主的なので、よりクラスの結束が固くなって行ったと思います。岡工祭、体育祭の準備で夜遅くまで学校に残り仲間たちと馬鹿話をしながらいろいろと知恵を絞り、作品にしていきました。

思い出深いのは三年生の時の岡工祭でした。縄文時代をモチーフに展示をする事になり、何か目玉になるものとして等身大マンモスを製作することになりました。考え付いたのは良かったのですが、製作は大変でした。体高四メートル、体の骨組みは足場用の単管で組み、頭部はアングル材を溶接しフレームを作り、その周りを竹で張りぼてにした物でしたが、一つ一つの作業が身をもつての勉強となりました。当日は十一月中旬の肌寒い中、半裸に近い原始人の格好をして校内を走り回り宣伝をしました。この時はほんとに岡

工祭を楽しみました。

また、私は現在あるかどうかは不明ですが、チャレンジ同好会に所属していました。それは、電気科の集まりで、活動内容は「何でもいい」という、ちよつと変わった同好会でした。そこで、



第三回うらじゃ祭りに出場することになり、踊り、衣装を考え、一生懸命練習し、結果は見事入賞する事が出来ました。正直な所、はじめは恥ずかしかったけれども、すぐに開き直る事が出来ました。それは一緒にいる仲間たちと「楽しもう」と思えたからです。多分みんな同じ気持ちだったと思います。

最後に本当に親友と思える仲間がたくさん出来た事が、岡工で過した三年間の一番の収穫でした。大変だったこと、恥ずかしかった事などは今では仲間たちとの共通の財産になりました。男ばかりの花の無いむさ苦しいところでしたが、岡工電気科に通って本当に良かったと思います。

「生徒会長として 過ごした二年」

第57期生徒会長
戸川 和也
(機械科3年A組)

生徒会長として過ごした一年間、様々なことがありました。

球技大会では、試合形式を従来のトーナメント形式を廃止し、サイクルリーグ方式に変更しました。これにより、一チーム最低二試合が出来るようになり、最後まで盛り上がる行事になりました。

小文化祭は、生徒の間で名称が問題となり、実行委員会を組織して、名称変更に向けて活動しました。その結果、小文化祭から発輝祭という名称に変更しました。

体育祭は、前日の大雨でグラウンドのコンディションが悪く、開催が危ぶまれました。しかし、運動部の生徒を中心に朝早くからグラウンド整備を行い、わずかな時間でコンディションを回復



させ、開催させることが出来ました。入場行進では、前日予行が出来ていないにもかかわらず、今までに負けず劣らざる行進になりました。また、雨で下がった雰囲気はどうにか吹き飛ばそうとラジオ体操のときに全校生徒が互いに声を掛け合い、一味違ったものになりました。

応援合戦やデコパネでは、各科の勢いを存分に出し、工夫を凝らしたものに仕上げていました。

そして今年の岡工祭は、朝から雨に見舞われ、来客者数を心配する声も多々ありました。しかし、最後まで自分たちを信じ、自分たちの岡工祭をしようと励ましあい、岡工祭を盛り上げました。心配していた来客者数も例年とあまり変わらなく、岡工祭の醍醐味を見せ付けられました。それもこれも岡工の長い歴史と先輩方の残していった軌跡からなる信頼からだと思えます。

この充実した一年間は、岡工の歴史に新たな一ページとして残ることだと思えます。生徒会長として、また一人の岡工生として、大変誇りに思います。私は、生徒全体が団結をし、各行事を少しでも盛大なものにしていこうと訴え続けました。その思いが伝わったのか、何気ない場面のあるところどころに生徒間の団結を垣間見ることができました。まだまだ小さい団結ですが、年々この種が成長していつて欲しいと思います。

自転車競技部 全国高校総体三位入賞

(七年連続入賞)

自転車競技部顧問
川口 敬二

今年も四名の選手が表彰台に立った。選手達はカメラのフラッシュを浴びながら、少しはにかむように、しかし誇らしげにブロンズのメダルを掲げて声援に答えた。

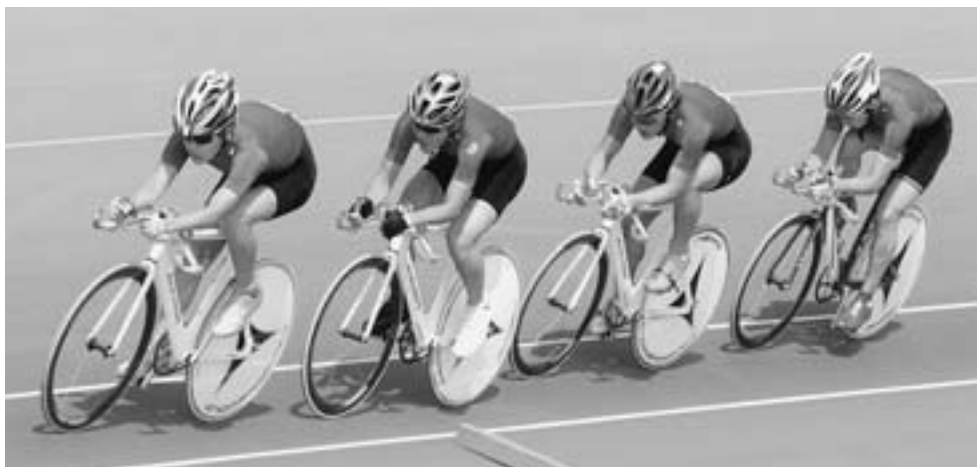
平成十八年八月五日、全国高等学校総合体育大会自転車競技4Kmチーム・パーシユートレースにおいて、3-4位決定戦に駒を進めた岡山工業高校チーム(植田知英、片山達夫、佐久間茂紀、藤原亮太)は、大分県の名門校日出陽谷高校チームとの好勝負に競り勝ち、4分43秒369のタイムで3位入賞の栄冠を手に入れた。またこの結果により自転車競技部は平成十二年から七年間連続で全国高校総体に入賞を果たし続けてきたことになった。ほんとうにあきらめなくて良かったと心の底から思えた瞬間であった。

ところで大会前の活躍予想の段階では、岡山工業高校チームがここまでの結果を残すと予想した者は誰もいなかったと断言してもよいほどであった。残念ながら今年の岡工チームには、誰が見ても全国大会で入賞を狙えるほどの実績を持った選手は育っていなかったからである。しかし我々はあきらめ

てはいなかった。選手一人一人が小粒なら、全員で力を合わせて大きな力を出す。その可能性に賭けていた。そして目標を、団体種目の4Kmチーム・パーシユートレースでの入賞に絞り込み、万全のトレーニングを積んで大会に臨んだ。

厳しい予選を勝ち抜いたチームのみが出走できる3-4位決定戦は、晴れの舞台であると同時に予選とは比べものにならないほどの緊迫した空気の中でレースが開始された。予選でのタイム差はわずかに0.3秒。実力はまったく互角の対戦であった。しかし岡山工業チームはスタートから精密機械のようなラップを刻み、大接戦ではあったが一度も逆転をゆるすことなくゴールラインを駆け抜けた。対戦相手の日出陽谷高校もチーム新記録。岡山工業高校もチーム新記録。お互いに死力を尽くし合った好勝負は岡山工業チームの冷静さと気迫に軍配があがった。

タイムレースにまぐれは有り得ない。誰が見ても今年の岡山工業チームの実力は全国3位にふさわしいものであったと自負している。



10月5日、第61回国民体育大会ボクシング競技、少年バンタム級で、海崎義明君（土3）が悲願の全国制覇を成し遂げた。



(写真：山陽新聞社提供)

「最高の思い出」

海崎 義明
(土木科3年)

私は昨年の十月に行われた第六十一回国民体育大会ボクシング競技少年バンタム級で優勝することができました。しかし、このような結果を収めるまでには苦難と本当に多くの人の支えと協力がありませんでした。私は父の影響で高校からボクシング始めました。ボクシングは一年間の経験がないと試合に出場できないので必死に一年間練習に打

ち込みました。

そして、二年生になって千葉で行われたインターハイに出場することができ、その二週間後に行われた国体予選も勝ち抜き地元岡山国体への出場も決定し、すべて順調に進んでいると思いましたが、ここからが苦悩の連続でした。

体調万全でむかえた岡山国体ですが、試合前の検診で血圧が規定の数値を超え失格し、本当に悔しい思いをしました。以降、それがトラウマとなり全国選抜に繋がる中国大会でも失格し、今まで必死にしてきた事は何だったんだろうと思う日が続き練習にも全く身が入りませんでした。

しかし、そんな時に支えてくれたのは家族や顧問の鴨頭先生だけでなく、部員や学校の先生、クラスの友達など本当に多くの人々の応援や励ましでした。そのおかげで私は再びやる気を取り戻し、全国優勝するために毎日厳しい練習をこなしていきました。

そして、三年のインターハイでは医師の診断書もらい何とか試合に出場することができましたが、自分の力を発揮できずに一回戦敗退し、残る大会は国体だけとなり、二ヶ月間はさらに厳しい練習をこなしました。絶対に優勝するという思いでむかえた国体では、くじにも恵まれ最後の最後で優勝という最高の結果を残すことができました。

本当に多くの方の協力と支えがなければこのような結果を残すことが出来ませんでした。後輩にはこれから苦しいことや辛い事などいろいろあると思いますが、

夢に向かって必死に努力すれば最後には絶対いい結果が出せると思うので、その夢を忘れずに頑張ってください。この岡山工業高校から全国で活躍する後輩が出ることを祈っています。

編集後記

関係者多数のご協力をいただき、第四八号の会報を無事発刊することができました。

寄稿いただきました皆様方には厚くお礼申し上げます。本年度は例年の行事である体育祭、岡工祭ともに雨の影響を受け、計画通りの開催が危ぶまれましたがどちらも無事実施され、岡工祭当日は、一、〇〇〇人を超える卒業生や保護者の方が足を運んで下さり、ありがとうございました。会員の皆様も機会がありましたら、ぜひ母校にお立ち下り下さい。

会報の誌面充実のため、各地の話題、会員の動静、同窓会の開催の報告がありましたらお知らせ下さい。今後ともよろしくご協力いただきますようお願いいたします。

尚、本年度は工友会全員の皆様方に、会報をお届けすることにいたしております。(和気)

後輩の活躍

自転車競技部

- ・ 県高校自転車競技秋季大会
- ・ 学校対抗優勝ほか上位入賞多数
- ・ 県高校自転車競技新人大会
- ・ 学校対抗優勝ほか上位入賞多数
- バスケットボール部
- ・ 全国高校バスケットボール選抜優勝大会岡山県予選 第3位
- バレーボール部
- ・ 新人大会 第6位

弓道部

- ・ 岡山県知事杯弓道大会 男子団体 第3位

陸上競技部

- ・ 第4回黒古今杯弓道大会 女子団体 第3位
- ・ 県高校弓道新人大会 女子団体 第2位
- ・ 中国五県陸上競技選手権大会
- 棒高跳 第3位 鶴海信敬(機3B)
- ・ 県国民体育大会最終選考会
- ・ 県高校陸上競技選手権大会
- 上位入賞多数
- ・ 県高校駅伝競走大会
- 第5位
- 少林寺拳法部
- ・ 県新人大会 女子単独演武
- 第2位 小林薫(化1)

柔道部

- ・ 県新人大会 60kg級
- ベスト8 谷中雄基(テ2)

ご意見・情報

お問い合わせは...

〒700-0013

岡山市伊福町4-3-92

岡山県立岡山工業高等学校

工友会事務局

tel:086-252-5231

fax:086-252-7130

http://www.okako.okayama-c.ed.jp/